

1. 〈水球陣〉京大戦

H26.8.12 対京都大学 @東大第二食堂下プール

東大 1361 11

京大 2231 8

得点者：谷口(1)、池亀(1)、石田(3)、梶原(1)、浪間(5)

七帝戦の前哨戦とあって、ライバルである京都大学を圧倒する水球を見せつけたいところ。相手チームは新チームで挑んでくるということで、絶対に勝たなくてはならない一戦となった。

第一ピリオド

センターボールは京大。試合前のミーティング通り、東大は強いプレスで相手に楽にプレーをさせない。対する京大も鍛え抜かれた泳力でプレーの主導権を取りに来る。お互いにパスミスなども見受けられなかなか点が入らなかったが、試合開始から 6 分が経過したところで浪間のシュートで東大が均衡を破る。するとすぐに京大のオフenseもかみ合い始めて、京大が 2 点を取って逆転したところで第一ピリオドが終了した。

第二ピリオド

センターボールをまたも手にした京大は、第一ピリオドの勢いそのままに攻めてくる。しかし簡単にボールを回させずに時間を使わせた東大は、落ち着いてカウンターでセットを組み 1 点を取る。そこから一進一退の攻防がはじまり、お互いに点を取り合う展開となった。京大が 1 点リードで前半を終えるかと思われたが、第二ピリオドが終わるその瞬間に浪間のゴールで同点。緊迫したムードで前半が終わった。

第三ピリオド

東大がセンターボールを取る。セットを組んで落ち着いて攻める東大は、左から石田のシュートでこのピリオド最初の得点。これで勢いに乗った東大は退水セットでも得点を奪い京大にプレッシャーを与える。東大の攻めが失敗したカウンターで点を取られもしたが、左からの石田のシュートがこのピリオドで 3 本も決まるなどして、3 点リードでピリオドを勝ち取る。

第4ピリオド

センターボールは東大。第3ピリオドでのリードを守りきるためにも、より一層プレスを強くして相手にかかる。ピリオド開始から5分が過ぎたところで試合を決定付ける浪間のシュート。京大も1点を返すが、東大のプレスに阻まれ反撃及ばず。試合は11対8で東大。

京大に思い通りのプレーをさせずにゲームに勝利することができたが、周りとの連携やフローターからのパスアウト、ディフェンスのカバーといった新たな課題も見えてきた。七帝戦での京大には今回の試合で出場していなかった4年生が入ってくるということもあり、勝ったからといって油断はできない状況。しかし確実にこの勝利で東大は勢いに乗ったためこのまま突き進んでいきたい。

最後になりましたが、応援していたきアドバイスまでいただいた吉田さん、競泳陣のメンバーの方々、本当にありがとうございました。(文責 川島)